

## 1 単元設定の理由

### (1) 単元について

四万十市では、農業・林業・水産業・商工業・観光等の産業分野における課題の解決を図り、産業間の連携のもと本市の豊かな地域資源を活かした総合的な産業振興を進めるための指針となる「四万十市産業振興計画」を平成27年3月に策定している。その農業分野では、10年後の目指す姿として「豊かな食を育み、地域で暮らし稼げる農業」をあげている。それは、まさしく現在10～11歳の児童が将来の夢に向かって自らの進路を決断する時期に、この計画は大きな節目を迎えることになるだろう。

そこで本単元では、第4学年「みんなの宝 四万十川」で学習してきた「自分が生まれ育ったふるさとの自然に目を向け、それを守り育む一員として自分達にもできることを実践する」資質・能力及び態度を基礎として、「食で地域を盛り上げ隊」を結成し、食糧生産に関わる人々の工夫や努力を知ること、ふるさとの産業に更なる値打ちを見出すことのできる児童の育成を目指したい。

中でも、日本人の主食である「米作り」は、四万十川の豊富な伏流水を活用した、本市にとって欠かすことのできない農業の1つともいえる。社会科「米づくりのさかんな地域」では、新潟県南魚沼市の米づくりに関わる人たちのさまざまな課題とそれに対応する取り組みについて学習した。しかし、それらは他県での特別な事例ではなく、自分たちの身近な地域でも起こりうるものであるということ、草刈りから稲刈りに至るまでの貴重な体験活動を通して実感させ、販売へと体験の幅を繋げる。

また地域の食文化を考える中では、高知県の郷土料理「鯉の薫焼きタタキ」の作り方や工夫した食べ方を調べたり実際に調理したりすることで、魅力ある食材「鯉」が地域の「水産業」や「商工業」「観光」にも貢献していることに気付かせたい。

### (2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元を通して特に大切に扱いたいことは、「学習方法に関すること」の「まとめ・表現する力」である。児童は様々な体験を通して、そこで知ったことや疑問に思ったこと、更には今後どのように学習を深めていきたいかを、個人やグループでまとめ、表現していく。また、「米届け大作戦！」では、これまでの学習成果が大きく試される。それぞれのグループが個性豊かな発表となるためにも、自分達の学習に快く協力してくださった方々とどのように関わり、自分達が地域のために貢献できるかを真剣に捉えさせることで、他者や社会との関わりに関する「他者と関わる力」「社会と関わる力」を伸ばしていきたい。

### (3) 児童について

本学級児童は、男女仲良く協力して学習を進め、特別支援学級在籍の児童や発達に特性のみられる友だちに対しても、自然な声かけや共に学ぼうとする優しさをもっている。しかし、授業中に多様な意見を出し合って、自分の思いを主張することは尻込みしてしまう児童も多く、活発に意見を交わし練り合い主体的・協働的に学ぶ探究に向けた学習方法にはまだまだ課題も見られる。どの教科においても素直で真面目という強みを生かして、総合的な授業の学習においても、いかに子どもの「やりたい！」を引き出し、体験・活動を通して深い学びに繋げるかを常に意識して進めている。

「米伝え隊」「鯉のタタキ食べ隊」の立ち上げでは、各学級からの隊長立候補者も多く、自分達で進めていく学習としての意識はほとんどの児童がもて、50時間という大単元がスタートできた。学習を進めるにあたり協力を頂きたい方への挨拶や活動への要請等も、隊長を中心に児童が行うという流れも軌道にのってきている。また、多くのプロと出会うことで、「もっと知りたい！やってみよう！学びたい！」という土台は随分固まってきた。

#### (4) 指導について

本単元では、食を大きく2つ（米…四万十市・鯉…高知県）に絞り込み、「米伝え隊」と「鯉のタタキ食べ隊」に分かれて学年を解体し、それぞれのテーマに沿った学習を深めながら定期的に学級単位での報告会を設けて交流してきた。また、講師を招いての学習会や体験活動等は学年全員で取り組み、より広く学べる機会も大切にされた。

「米伝え隊」では、今年度は米作りのプロである農家や農業振興センターの方から学んだことをより身近で比較・観察するために、それぞれの学級で種もみを発芽させた。また、ベランダでもプランター稲として育てる学習は、理科「発芽と成長」、家庭科「食べて元気！ごはんのみそしる」と関連させる手立てとも成り得た。米を育てる中では、台風被害も経験した。そのことで児童は、より深く生産者の想いを自分のこととして感じる事ができるようになってきた。

「鯉のタタキ食べ隊」では、幡多中央魚市場の社長さんに来ていただき、鯉の流通や調理方法、競り体験等を学んだ。多くの質問に答えてくださり、競りの実演を子どもと共に進めていただく中で、児童は幡多公設地方卸売市場への関心がより高まり、社長さんに見学希望を伝えることで実現ができた。市場見学当日は、前日までの悪天候により市場に並んだ魚はいつもより少なかったとはいえ、買い受け人を前に競りを行う競り人の迫力ある声や、先日習ったばかりの指使いのやりとりを目の前にして、大変興味深く見入っている様子であった。

それぞれの隊の取り組みの集大成としての「鯉のタタキ井作り」体験後は、残った米の販売に目を向け、学級単位で「米届け隊！」を結成し、販売のための大作戦を展開していく。そこで、これまでの体験をもとに自分達の米をどのようにPRしていけばよいかを考えさせ、1組「応援ソング」2組「応援キャラクター」3組「応援フレーズ・ネーミング」を作成していくことになった。そしてグループで考えた案をよりよいものにするために意見交流会を行う場を設定する。そのきっかけ作りとしては、四万十市のぶしゅかん農家さんや四万十市役所農林水産課の方に、「ぶしゅかんの生産方法」「ぶしゅかん商品推進活動」についてお聞きし、ぶしゅまる君やプロモーションビデオで流れている曲等の宣伝効果を捉え、自分達の米販売のヒントにさせたい。そして、最終的には、今年度お世話になった方々や4年生を招待し、自分達の取り組みについて語る場「食で地域を盛り上げセミナー」を開催したいと考えている。

本時では、めあてを「みんなの想いが伝わる応援ソングを考えよう！」と確認し、各グループでアイデアを出し合って作った応援ソングを学年全体に披露する。曲作りにあたっては、5年生までに音楽の授業の中で習った曲に自分達が作詞していく形をとりたい。歌詞の内容やインパクトのあるメロディーをどのように選ぶかによって、完成した時の出来栄や、はじめてこの曲を聴いた人への印象の強さも違ってくることを事前によく考えさせていく。また、収穫までの長い期間、多くの方の力を借り、自分達も「苗の管理」「跡付け」「田植え」「草刈り」「稲刈り」等を通して米作りの難しさや大変さを実感したことで、歌詞にどのような想いを込めるかをよく吟味させていくことが大切である。そのためにも、ぶしゅかん農家さんのお話の振り返りで確認した、すてきな応援ソングを作るために、押さえなくてはならない観点「生産者の想い」「自分達の体験」「買う人へのアピール度」「インパクトのある歌詞やメロディー」をはっきりさせておきたい。3つのグループが発表を済ませた後は、そ

の観点をふまえながら他のグループに対しての質問を伝え、自分達の曲のアピールはもちろんのこと、他のグループの曲の工夫点にも目を向けることで、判定をしてくれる児童（オーディエンス）の心を揺さぶりたいと考えている。

## 2 単元の目標

- 米づくりや地域の食文化について、地域の方や専門家から進んで情報を収集し、学んだことを表現していくことができる。(学習方法)
- 地域の食にかかわる人たちの想いを反映させ、「米届け大作戦！」に向けて、よりよいものをつくろうとアイデアをだすことができる。(自分自身)
- 地域の食にかかわる人たちの想いを感じ取り、「食で地域を盛り上げセミナー」に向けて自分の考えや意見をまとめ発表することができる。(他者や社会との関わり)

## 3 単元の評価規準

視点	育てたい力	目指す子どもの姿
学習方法に関する事	① 課題を設定する力	ア 米づくりや地域の食文化について、自分の関心を持った内容を考え課題を見つける。 イ 地域のくらしをみつめ、自分の追求したい課題を見つけることができる。
	② 情報を収集する力	ア 地域の食文化や米づくりにかかわる地域の方や専門家から、進んで必要な情報を収集する。 イ 参考文献や関連施設から、課題に合わせた情報を収集することができる。
	③ 整理・分析する力	ア 個人の総合ファイルに、課題を解決するための情報や学習の足跡を残すことができる。 イ 課題に向かう方法や情報を、見やすく整理することができる。
	④ まとめ・表現する力	ア 米づくりや地域の食文化を発信するために、自分達の米を販売するための効果的な宣伝方法として、よりよい応援キャラクター・応援ソング・応援フレーズやネーミング等を作成することができる。 イ 専門家の助言をもらい、よりよい表現方法を追求する。
自分自身に関する事	⑤ 目標を決め自ら意思決定する力	ア 地域の食文化を広めるために、自分は何ができるか考え、実行することができる。
	⑥ 自分の生き方を考える力	ア 地域の食にかかわる人たちと出会い、学んだことをこれからの食生活に進んで生かそうとする。
他者や社会との関わりに関する事	⑦ 他者と関わる力	ア 地域の食文化を、グループでまとめ、地域の人たちに分かりやすく伝えることができる。 イ 電話や手紙、訪問など、学習でお世話になる人たちに、積極的に質問したり、働きかけたりする。
	⑧ 社会と関わる力	ア 食や地域を大切にしている心情を持ち、地域の食文化を盛り上げる取り組みを行う。

4 単元計画（全50時間）

【米伝え隊】 食で地域を盛り上げ隊 【鯉のタタキ食べ隊】					
評価 規準	指導や支援の ポイント	学習活動	学習活動	指導や支援の ポイント	評価 規準
①—ア ①—イ	・イメージマップ を使って整理さ せる。	<b>みんなの宝を広げよう（3）</b>		・イメージマップ を使って整理さ せる。	①—ア ①—イ
①—ア ②—イ	・自宅にある米袋 調べ（自主学習） から交流、発展さ せる。	<b>米作りの情報集めをしよう（4）</b> ・米袋の生産地を調べ、四万十 市産の米について興味をも つ。 ・美味しい米作りに必要なこと を調べる。	<b>鯉のタタキの情報集めをしよう（4）</b> ・鯉について、生態や釣り方等に ついて調べる。 ・鯉のタタキの調理法について調 べる。	・魚グループと調 理グループに分 かれて、調べてい く。	①—ア ②—イ
③—イ ①—イ	・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問点 を交流させる。	<b>食で地域を盛り上げ隊 第1回交流会を開こう！（2）</b>		・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問 点を交流させる。	③—イ ①—イ
②—ア ⑤—ア ②—ア	・田植えまでにや らなければなら ない事を整理さ せる。 ・鎌の使い方に留 意させる。 ・跡付け作業に関 わった児童への 評価を忘れない。	<b>米づくりについて学ぼう（8）</b>		・田植えまでにや らなければなら ない事を整理さ せる。 ・鎌の使い方に留 意させる。 ・跡付け作業に関 わった児童への 評価を忘れない。	②—ア ⑤—ア ②—ア
③—ア	・観察ノートに は、絵と文章で丁寧 に記録させる。	<b>稲の成長を観察しよう（2）</b> ・ベランダ稲の成長と田んぼ稲 の成長を比較観察する。	<b>魚と調理法について深めよう（2）</b> ・鯉やタタキの調理法についてこ れまで調べたことを整理する。	・違うグループの発 表の良さ等を話し 合わせる。	③—イ
③—イ ①—イ	・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問点 を交流させる	<b>食で地域を盛り上げ隊 第2回交流会を開こう！（2）</b>		・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問 点を交流させる。	③—イ ①—イ
③—ア ⑤—ア	・手入れの生き届いた 田んぼ稲と水の管理だ けのベランダ稲の写真 や実物、観察ノート を手掛かりとさせる。	<b>稲の成長を観察しよう（2）</b> ・ベランダ稲の成長と田んぼ稲 の成長を比較観察する。 ・田んぼの草刈り（2回目）を 行う。	<b>四万十市の食の発信地から学ぼう（2）</b> ・幡多公設地方卸売市場の映像や 写真から、競りの様子や市場で 働く人、扱われている品物等に ついて興味をもつ。	・教師の事前学習会 で撮った映像等を 効果的に紹介し、四 万十市の食発信地 に興味をもたせる。	⑦—イ
③—イ ①—イ	・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問点 を交流させる。	<b>食で地域を盛り上げ隊 第3回交流会を開こう！（1）</b>		・違うグループの取り 組みの工夫点や疑問 点を交流させる。	③—イ ①—イ

⑦ーイ	・具体的な質問を事前に伝え、児童の興味関心が高まる工夫をする。	<b>魚のプロから学ぼう (5)</b>		・具体的な質問を事前に伝え、児童の興味関心が高まる工夫をする。	⑦ーイ
②ーイ	・市場でしか味わえない生の体験の感想を大切に扱う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森田さん（幡多中央魚市場）から鯉の流通や調理法等についてより具体的な話を聞く。</li> <li>・幡多公設地方卸売市場を実際に見学し、森田さんから学んだことを深める。</li> </ul>		・市場でしか味わえない生の体験の感想を大切に扱う。	②ーイ
②ーイ	・社会科での学習を振り返り、農家の方の苦勞を考慮の機会を大切にす。	<b>稲刈りの準備をしよう (2)</b>	<b>鯉と調理方法についてまとめよう (2)</b>	・写真等も活用し、見聞きしたことを、自分達のことばで表現させる。	③ーア
⑤ーア ②ーイ	・手刈りのコツを理解させ、安全に効率よく作業に取り組みさせる。	<b>自分達で作った米を収穫しよう (3)</b>		・手刈りのコツを理解させ、安全に効率よく作業に取り組みさせる。	⑤ーア ②ーイ
⑦ーイ	・鯉の焼き方や切り方を体験し、その感想をまとめさせる。また、自分達の米の味にも注目させる。	<b>鯉のタタキ井を作って食べよう (2)</b>		・鯉の焼き方や切り方を体験し、その感想をまとめさせる。また、自分達の米の味にも注目させる。	⑦ーイ
②ーア	・生産者の想いや買う人へのアピールも含めた宣伝に注目させる。	<b>四万十市の農家さん（ぶしゅかん）の取り組みを知ろう (1)</b>		・生産者の想いや買う人へのアピールも含めた宣伝に注目させる。	②ーア
①ーア	<b>※本時から、学級総合で取り組んでいく。</b>	<b>米届け隊の結成式をしよう (1)</b>		<b>※本時から、学級総合で取り組んでいく。</b>	①ーア
⑧ーア ④ーア ④ーイ	・グループ学習が効率よく進められるようにグループ帳をリーダーに提出させながら進める。	<b>「米届け大作戦！」に取り組もう (8)</b>		・グループ学習が効率よく進められるようにグループ帳をリーダーに提出させながら進める。	⑧ーア ④ーア ④ーイ
⑦ーア	・公共の場であることのマナーに気を配らせる。	<b>〇〇米を買ってもらおう (2)</b>		・公共の場であることのマナーに気を配らせる。	⑦ーア
⑥ーア	・感謝の気持ちや来年度への引き継ぎの想いを大切にさせる。	<b>「食で地域を盛り上げセミナー」を開催しよう！！ (2)</b>		・感謝の気持ちや来年度への引き継ぎの想いを大切にさせる。	⑥ーア

## 5 本時の学習（44/50時間）

### (1) 目標

- ・自分達のグループのアイデアを採用してもらうためのアピール方法を工夫することができる。
- ・よりよい応援ソングを創り出すために、自分達の作品と比べながら他のグループの発表を鑑賞し、想いを伝えることができる。

### (2) 準備物

歌詞（掲示用・ワークシート） 判定カード

### (3) 展開

学 習 活 動 【発問（★）】	学習活動への支援（○）と評価（◆）
1. 本時のめあてを確かめる。	○オーディエンス児童に、判定の観点を確認する。
<b>みんなの想いが伝わる応援ソングを考えよう！</b>	
2. グループごとに自分達の応援ソングを発表する。	○それぞれの曲のアピールポイントを発表させる。 ○歌詞を掲示し、視覚的に確認できる手立てとする。
3. 他のグループへの意見を発表したり、質問に答えたりしながら、よりよい曲にするための話し合いを行う。 ★4つの観点をもとに、それぞれのグループに質問や意見はありませんか。	○大切にしてきた4つの観点「生産者の想い」「自分達の体験」「買う人へのアピール度」「インパクトのある歌詞やメロディー」を意識させ、工夫点や疑問点等を伝え合わせたい。 ◆自分達の米を販売するための効果的な宣伝になるために意見交換ができる。〔④-ア〕
4. どのグループの曲にしたいかを判定してもらう。	○一斉に意思表示が出来るように判定方法の確認をする。
5. 本時の振り返りと次時の予告をする	○次回の意欲に繋がる声かけをする。

## 6 板書計画

